

市では電柱がなぎ倒され、新川漁港の灯台の土台が高波で崩落して灯台が30度も傾く被害が出た。

新潟東港では過去に季節風でガントリークレーンが倒壊する被害が出たこともあったが、港湾も災害への備えが欠かせない。特に港は救援拠点として大きな役割が期待されるだけに、防災への視点がより重要になる。

政権交代のときのキャッチフレーズの一つ「コンクリートより人へ」が、いやに牧歌的に感じられるほどの気象・地殻変動の変わり様である。新年度も災害への備えを第一とし、列島の安全度を高めなければならない。

* : * :

2 トピック

* : * :

●防災ネットワーク機能の強化を視野に入れた瀬戸内・海の路の利用振興」について (瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会 事務局)

【「瀬戸内・海の路ネットワーク災害時相互応援に関する協定」を締結】

瀬戸内海沿岸の107の市町村、11府県、国土交通省9地方機関(近畿・中国・四国・九州の各地方整備局、運輸局及び神戸運輸監理部)が会員となっている瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会(通称:海ネット)に加盟する28の会員(22市5町1村)が、平成24年3月29日に「瀬戸内・海の路ネットワーク災害時相互応援に関する協定」を締結しました。

この協定は、平成23年11月18日に広島県大竹市において開催された海ネット20周年記念行事第2部の第5回瀬戸内海首長サミットで決議された共同宣言「～防災ネットワーク機能の強化を視野に入れた瀬戸内・海の路の利用振興～」を契機として、サミットの参加首長を中心に検討が進められたもので、平時は、瀬戸内海の海の路を通じた地域振興や魅力発信により、地域間の絆を深め、災害時には、平時に構築された有機的な海の路のネットワークを活かして、相互に救援協力や、応急・復旧対策を円滑に行うことを目的としています。

海ネットでは引き続き、この協定を通じた更なる応援ネットワークの拡張を図りながら、観光ルートとしての新たな海の路の開拓や、フェリー・旅客船等の予備船を活用したモニターツアーなどの実施により、日頃の市町村間の連携強化に努め、地域防災力の強化に向けた取組みを進めます。

協定締結市町村 (平成24年3月29日現在)

- (大阪府) 岬町
- (兵庫県) 姫路市、播磨町
- (和歌山県) 海南市
- (岡山県) 玉野市
- (広島県) 竹原市、三原市、尾道市、大竹市、廿日市市、江田島市、坂町
- (山口県) 宇部市、山口市、防府市、柳井市、周防大島町
- (徳島県) 小松島市
- (香川県) 高松市、丸亀市、坂出市
- (愛媛県) 松山市、八幡浜市、新居浜市、西条市、大洲市、上島町
- (大分県) 姫島村

【「瀬戸内・海の路の利用振興」モニターツアーを開催しました】

平成24年3月18日（日）に、「瀬戸内・海の路ネットワーク災害時相互応援に関する協定」の実効性を確認するため、「瀬戸内・海の路の利用振興」モニターツアーを開催しました。

当日は81名の参加者が、平家・源氏の歴史と浪漫を探訪と体感するクルーズとして瀬戸内海の島々を高速船で巡り、平時の観光ルートとしての「海の路」が、災害時には人員・物資輸送ルートや被災者の緊急搬送ルートとして活用が可能かどうかについて検証を行いました。

今回のモニターツアーでは、定期航路で普段使っている船が船舶検査でドック入りした際や、故障した時などの事態に備え船会社が代替船として所有している“予備船”と呼ばれている船を使用したこと、また島嶼部の漁港を中心に、災害時における港の利用可否を確認した事が特徴としてあげられます。

「観光」と「防災」は目的が異なりますが、このような瀬戸内海の海の路を通じた新たな観光ルート開発（モニターツアーなど）や魅力発信により、市町村間の絆が深まり、災害時には、平時に構築された有機的な海の路のネットワークを活かした相互の応急、復旧対策が円滑に行うことができる様、期待しています。



【モニターツアーの様子】

●みなとオアシス「渚の駅」たてやま」オープン式典が開催されました。

（関東地方整備局 千葉港湾事務所）

平成24年3月25日（日）にみなとオアシス「渚の駅」たてやま」がオープンするのにあわせて、「渚の駅」たてやまの展望デッキにてオープン式典が館山市の主催で開催され、関係者約130名が出席しました。

式典では金丸謙一館山市長による主催者挨拶の後、森田健作千葉県知事（小池幸男県土整備部長代理出席）、地元選出の浜田靖一衆議院議員（秘書代理出席）、中後淳衆議院議員（秘書代理出席）、石田三示衆議院議員（秘書代理出席）、秋山光章千葉県議会議員、福田功国土交通省大臣官房技術参事官から祝辞が述べられました。

式典終了後には一般開放され、体験型学習施設「海辺の広場」や市立博物館分館、ミュージアムショップなど大いに賑わいを見せました。「渚の駅」たてやま」には、他にも館山湾が一望できる展望デッキ、館山港と伊豆大島を結ぶ高速船のターミナル、交流スペースなどがあり、館山地域の新たな観光拠点としてさらに発展することが期待されます。



【来賓によるテープカット】



【オープン後の施設状況】

